



## 2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年8月6日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東  
 コード番号 7458 URL <http://www.dkkaraoke.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151  
 四半期報告書提出予定日 2018年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2019年3月期第1四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	34,839	2.6	5,349	△3.7	5,817	△0.0	3,808	1.3
2018年3月期第1四半期	33,948	1.0	5,553	26.3	5,820	24.4	3,758	507.2

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 3,886百万円(2.7%) 2018年3月期第1四半期 3,785百万円(28.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	66.86	66.79
2018年3月期第1四半期	65.78	65.72

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	178,219	126,060	69.8
2018年3月期	180,190	125,356	68.7

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 124,468百万円 2018年3月期 123,792百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	55.00	—	56.00	111.00
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	56.00	—	56.00	112.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	70,400	2.0	10,000	△7.2	10,300	△10.2	6,500	△11.9	114.10
通期	142,500	0.8	21,200	0.5	22,000	0.7	13,500	2.9	236.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年3月期1Q	57,234,200株	2018年3月期	57,234,200株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2019年3月期1Q	266,262株	2018年3月期	266,228株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2019年3月期1Q	56,967,953株	2018年3月期1Q	57,131,596株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績の状況	2
(2) 財政状態の状況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間(2018年4月1日～2018年6月30日、以下「当第1四半期」という)におけるわが国の経済は、引続き堅調な雇用・所得環境を背景に、緩やかな回復基調が続くものの、国外では米国発の保護主義的な通商・外交政策による貿易摩擦の懸念など、依然として先行き不安定な状況で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、ナイト市場は依然として漸減傾向で推移しており、また、カラオケボックス市場における事業者間の競争が激しさを増すなか、一部大手カラオケチェーン店間の経営統合が実行されるなど、同市場の寡占化が進行しております。一方、エルダー市場においては、「歌うこと＝健康」の認知が拡がり、市場は順調に拡大しております。

この様ななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第1四半期の業績は順調に推移し、売上高は34,839百万円(前年同期比2.6%増)、利益におきましては販管費が増加したことなどにより、営業利益は5,349百万円(同3.7%減)、経常利益は5,817百万円(同0.0%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、特別損益が改善したことにより3,808百万円(同1.3%増)となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高となっております。

(百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	33,948	34,839	891	2.6%
営業利益	5,553	5,349	△203	△3.7%
経常利益	5,820	5,817	△2	△0.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,758	3,808	50	1.3%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

## (業務用カラオケ)

当事業におきましては、引続き安定収益と位置付ける機器賃貸件数の拡大に加え、旧機種から新機種への入替え促進による情報提供料収入の単価向上に注力いたしました。また、カラオケ市場の活性化とカラオケDAMの差別化を図るため、「B'z」を始めとする人気アーティストのMVやLIVE映像を独占配信するなど、商品力の強化に努めました。エルダー市場におきましては、(一社)日本音楽健康協会との連携により、DKエルダーシステムの普及活動を展開するなど、稼働台数の拡大に注力しております。

以上の結果、「LIVE DAM STADIUM」の発売から3年経過したことに加え、機器賃貸の強化に努めた結果、商品販売が減少したことなどにより、売上高は前年同期比0.9%の減収となりました。利益面におきましては、商品販売や機器賃貸の原価低減に努めたものの、TVCMなどの販売費が増加したことなどにより、営業利益は前年同期比0.3%の減益となりました。

(百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	16,366	16,224	△141	△0.9%
営業利益	4,391	4,375	△15	△0.3%

## (カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、顧客満足度の向上による集客力とブランド力の強化を図るため、ハード及びソフト両面の強化に注力いたしました。ハード面におきましては、ビッグエコー30周年キャンペーン企画として、大手カラオケチェーン初となる、ビッグエコー全店にWi-Fi設置&スマホ充電器を完備するなど、ご利用者様の利便性向上に努めました。ソフト面におきましては、採用及び教育体制を強化するなど、提供するサービス品質の向上に努めました。また、同キャンペーン企画における販促施策として、TVを始めとしたCMの放映に加え、大手レコードレーベルとのコラボ企画を推進しております。

以上の結果、当事業の売上高は、5月の天候不順や6月のサッカーワールドカップなどの影響もあり、既存店売上高は軟調に推移したものの、前期に子会社化した株式会社Airsideの収益貢献により、前年同期比7.8%の増収となりました。一方、営業利益におきましては、店舗スタッフの平均時給の上昇による原価増に加え、株式会社Airsideの子会社化に伴うのれん償却負担増や30周年キャンペーンのコスト増など販管費の増加もあり、前年同期比14.2%の減益となりました。

(百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	13,658	14,719	1,061	7.8%
営業利益	1,583	1,358	△224	△14.2%

## (音楽ソフト)

当事業におきましては、業務用通信カラオケ事業をはじめとしたグループネットワークの活用、連携強化による相乗効果と業務の効率化に注力いたしました。また、積極的に新人アーティストの発掘とヒット曲の創出に努めてまいりましたが、事業環境は依然厳しい状況で推移しております。

以上の結果、売上高が前年同期比3.5%減少したものの、営業費用の低減に努めたことにより、営業利益は3百万円となりました。

(百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	1,938	1,871	△66	△3.5%
営業利益	△0	3	3	—

## (その他)

当事業におきましては、BGM放送事業において光回線を活用した「スターデジオ光」に加え、モバイル回線を活用した「スターデジオAir」をこの4月より提供開始いたしました。また、「ザ・パーク」ブランドで展開するコインパーキング事業の拡大に努めるほか、不動産賃貸、コンシューマー向けストリーミングカラオケサービスなども堅調に推移いたしました。

以上の結果、不動産賃貸収入やパーキング事業収入等の増加により売上高は前年同期比2.0%の増収、営業利益におきましては、不動産賃貸事業の先行投資等による販管費の増加により、前年同期比1.1%の減益となりました。

(百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	1,984	2,023	38	2.0%
営業利益	377	373	△4	△1.1%

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,971百万円減少し、178,219百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、現金及び預金が1,678百万円、有価証券が2,271百万円それぞれ減少し、その他に含まれる前払費用が1,815百万円増加しております。

固定資産では、投資有価証券が246百万円、敷金及び保証金が661百万円それぞれ増加しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ2,675百万円減少し、52,158百万円となりました。

これは主に、流動負債の未払法人税等が2,568百万円減少したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ704百万円増加し、126,060百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加3,808百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少3,190百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年5月14日に発表いたしました第2四半期連結累計期間および通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	45,538	43,859
受取手形及び売掛金	5,132	4,981
有価証券	4,969	2,697
たな卸資産	6,252	6,096
その他	5,660	7,063
貸倒引当金	△175	△163
流動資産合計	67,378	64,534
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器 (純額)	9,794	9,839
カラオケルーム及び飲食店舗設備 (純額)	19,299	19,291
土地	38,053	38,053
その他 (純額)	8,258	8,150
有形固定資産合計	75,405	75,334
無形固定資産		
のれん	4,065	3,899
その他	6,198	6,234
無形固定資産合計	10,263	10,133
投資その他の資産		
投資有価証券	5,288	5,534
敷金及び保証金	14,263	14,924
その他	7,656	7,822
貸倒引当金	△65	△65
投資その他の資産合計	27,142	28,216
固定資産合計	112,812	113,684
資産合計	180,190	178,219

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,421	3,124
短期借入金	4,015	4,251
未払法人税等	4,652	2,084
賞与引当金	1,128	573
その他	12,146	12,698
流動負債合計	25,365	22,731
固定負債		
社債	6,500	6,500
長期借入金	12,587	12,356
役員退職慰労引当金	1,047	778
退職給付に係る負債	6,176	6,294
その他	3,157	3,497
固定負債合計	29,469	29,427
負債合計	54,834	52,158
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,003	4,003
利益剰余金	108,489	109,108
自己株式	△1,309	△1,309
株主資本合計	123,534	124,152
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,261	1,311
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	87	71
退職給付に係る調整累計額	△356	△333
その他の包括利益累計額合計	258	315
新株予約権	203	224
非支配株主持分	1,359	1,367
純資産合計	125,356	126,060
負債純資産合計	180,190	178,219



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
売上高	33,948	34,839
売上原価	20,216	21,075
売上総利益	13,731	13,763
販売費及び一般管理費	8,178	8,414
営業利益	5,553	5,349
営業外収益		
受取利息	9	23
受取協賛金	77	85
為替差益	42	186
その他	257	242
営業外収益合計	387	537
営業外費用		
支払利息	81	40
その他	39	29
営業外費用合計	120	69
経常利益	5,820	5,817
特別利益		
固定資産売却益	63	0
投資有価証券売却益	—	61
特別利益合計	63	62
特別損失		
固定資産処分損	36	19
減損損失	117	2
特別損失合計	154	22
税金等調整前四半期純利益	5,729	5,858
法人税、住民税及び事業税	2,056	2,071
法人税等調整額	△100	△42
法人税等合計	1,955	2,028
四半期純利益	3,774	3,829
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	20
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,758	3,808

## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
四半期純利益	3,774	3,829
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	50
為替換算調整勘定	△25	△16
退職給付に係る調整額	25	23
その他の包括利益合計	11	56
四半期包括利益	3,785	3,886
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,769	3,865
非支配株主に係る四半期包括利益	15	20

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	16,366	13,658	1,938	31,963	1,984	33,948	—	33,948
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	4,391	1,583	△0	5,974	377	6,351	△798	5,553

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△798百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「カラオケ・飲食店舗事業」において、株式会社Airsideの全株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において、3,603百万円であります。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	16,224	14,719	1,871	32,816	2,023	34,839	—	34,839
セグメント利益 (営業利益)	4,375	1,358	3	5,737	373	6,111	△761	5,349

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△761百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。